

バングラデシュの首都ダッカの非正規工場で働く少年。

People's Republic of Bangladesh

EARTH GALLERY Vol.138 [バングラデシュ人民共和国]

地球ギャラリー
写真・清水匡 (フォトグラフ)

子どもたちに未来を



グループで水売りの作業をする子どもたち。



拾い集めたペットボトルを換金しに行く少年。



エアコン部品工場。多くの非正規工場が薄暗く、換気も十分ではない。



鉄くずや木片などが落ちている中、子どもが素足で働く工場もあった。



備品を壁際に整頓している工場の壁には、労働環境の改善をうながすポスターが。



造船工場働く大人の姿。しかし町工場のおもな働き手は子どもか青年層だ。



天井に半透明のトタンを使って明るく、工場内を整理したことでケガの予防に取り組んでいる工場。



ダッカの玄関口、シヨドルガット港。



黙々と作業するラジュくん。火花が跳ねても気にする様子はない。

デルタ地帯が国土の広い範囲を占める
 バングラデシュでは、船が移動や運送の
 おもな手段となっている。早朝からにぎ
 わう首都ダッカのシヨドルガット港で、
 人だかりを縫うようにして働く子どもた
 ちの姿が目についた。

「父さんはリキシャー（人力車）の運転
 手だけと一日200〜300タカ（約
 250〜390円）しか稼ぎがなくて、
 僕は学校に通えなかった。10歳のとき、
 父さんに『村では稼げないからダッカに
 行って働け』って言われたんだ」と話し
 てくれたロムジャンくんは14歳。彼は
 フェリーの乗客に水を売る仕事をしてい
 る。捨てられたペットボトルを拾い集め
 水道水を入れて売り歩く仕事は、この港
 の子どもたちには一般的なものだ。多く
 が地方出身で、田舎では生活が成り立た
 ずダッカに出稼ぎにきているのだ。しか
 し安定した仕事を得ることは難しく、そ
 の日暮らしの生活を余儀なくされている。
 一方で、私は町工場で「雇用」されて
 いる子どもたちの様子も取材した。ある
 エアコン部品工場を訪れたときのこと。
 工場内部は薄暗く、目が慣れるまで何も
 見えない。奥に進もうとしたら「危な
 い！」と声が上がった。見回すと、作
 業用機械の配線が銅線むき出しのまま天
 井にあるコンセントにつながっており、
 あちらこちらにコードがぶら下がってい

る。そんな気を抜くと危うく感電しそ
 うな環境にいる少年、14歳のロビンくんは、
 ここで働き始めてまだ2週間だという。
 食事と寝る場所は提供されているが、朝
 8時から夜8時まで働いても、見習いの
 うちは給与はない。空調が整っていない
 ため、機械の熱がこもった工場内は蒸し暑
 く、従業員は上半身裸で働いていた。

バングラデシュは近年高い経済成長を
 達成し貧困率は減少傾向にあるが、都市
 部貧困率21・3パーセントに対して農村
 部は35・2パーセントと地方格差が大き
 く、都市部への人口流入が止まらない。
 こうした貧困層出身者が就職するのはい
 わゆる「非正規企業」といわれ、登記さ
 れていない個人経営工場などがほとんど
 である。同国での非正規企業の割合は約
 40パーセントを占め、被雇用者は悪条件
 での労働を強いられている。

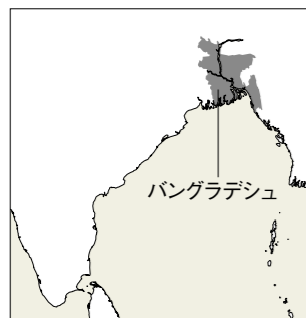
17歳のラジュくんは鉄鋼工場に勤めて
 4年目。顔に火花が飛んでも表情を変え
 ずに作業する姿は職人そのものだ。工場
 のオーナーであるハビプールさんは、自
 身も子どもの頃田舎から単身ダッカに
 やってきて、20年間コツコツお金をため
 てこの工場を始めた。ハビプールさんは
 子どもも働き手として受け入れ、身寄り
 がない子どもには寝る場所や食事も提供
 している。「子どもが働くのはよくない
 というが、故郷の村は貧しくて子どもた

ちは学校に通えず仕事すらない。都会で
 生きていくのは大変だが、物乞いするよ
 り、ちゃんとした仕事をした方がいい。
 子どももときから働けば、それだけ金も
 たまる」。工場で働く大人たちには幼い
 ときから働いている者も多く、子どもた
 ちを厳しくも温かく迎え入れていた。

NPO法人国境なき子どもたち(KINK)
 は、非正規企業の労働環境を改善するこ
 とで子どもたちの労働条件を向上させる
 プログラムを、外務省の日本NGO連携
 無償資金協力の助成を受けて実施してき
 た。町工場では大きな設備投資は難しい。
 しかし、屋根のトタンを一部透明にした
 り配線を整備したりするだけでも従業員
 のケガが減り、結果として生産性も向上
 する。整頓され明るくなった工場で、受
 注が増えたと喜ぶオーナーも少なくない。
 「子どもの権利」への理解が深まるにつれ、
 子どもたちの意見に耳を傾けたり、学校に
 行かせたりするオーナーも増えた。児童労
 働を完全になくすることは今すぐにはでき
 なくとも、過酷な環境で働かざるをえない
 子どもたちのために私たちができること、
 すべきことはたくさんあるはずだ。

清水匠(しみずまよこ)

自然映画会社でカメラマンを務め、教育映画や自然科学番
 組の制作に携わる。1999年より「国境なき医師団日本」
 の映像部でアフリカやアジアの活動現場の撮影・編集を担
 当。2003年よりNPO「国境なき子どもたち」に所属す
 るかわらフォトグラファーとしても活動している。



左：鉄鋼工場のオーナー、ハビプールさん。自身も子どもの頃からダッカで出稼ぎ
 をしていた。右：作業時に防具が導入されるようになった。